

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

ダイバーシティが牽引する 地域活性化とイノベーション

～食・医療・女性のパワーが拓く未来社会～
令和4年度事業報告書



Contents

ご挨拶	・ 国立大学法人山梨大学 学長 ・ 国立大学法人山梨大学 理事、副学長 ・ シミックホールディングス株式会社 COO ・ 株式会社はくばく 取締役管理本部長	島田 眞路 …… 2 風間 ふたば 大石 圭子 …… 3 田邊 征治
事業概要	・ 事業の目的 …… ・ 実施体制	4
令和4年度 主な実施内容		7
活動報告		
(1)ダイバーシティ研究環境整備		
・ クロスアポイントメント制度を活用した共同研究体制の継続および活動内容 ……		9
・ ダイバーシティマネジメント研修会 ……		11
・ 山梨大学男女共同参画講演会 ……		12
・ 【山梨大学】キャリアアシスタント（CA）制度 ……		13
産休・育休からの復帰支援制度 ……		14
論文投稿費と英文校閲費支援制度		
保育園との連携 ……		15
ワークライフバランスに関するアンケート調査 ……		16
・ 【シミックホールディングス(株)】広報誌「C-PRESS」（グループの取組） ……		20
・ 【(株)はくばく】シミックファーマサイエンス訪問 ……		21
研究進捗発表会		
はくばく勉強会		
(2)女性研究者の研究力向上とリーダー育成		
・ 共同研究 ……		22
・ 次世代リーダー育成企画 女性社長対談 ……		23
・ スキルアップセミナー ……		25
・ 若手研究者育成セミナー ……		27
・ 女性研究者研究報告会・交流会 ……		30
・ 【山梨大学】地域貢献型研究支援 ……		31
Coの花フェローシップ ……		32
山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞 ……		33
女性管理職の登用加速に向けた調査分析 ……		34
・ 【シミックホールディングス(株)】「カラダ測定会」におけるアンケート調査 ……		40
・ 【(株)はくばく】ポスター発表 ……		41
報文の掲載		
(3)女性研究者の上位職登用、裾野拡大		
・ News Letterの発行 ……		42
・ 事業実施組織（Yamanashi Network for Diversity & Innovation） による委員会 ……		43
第三者機関による事業評価委員会（合同開催）		
・ 【山梨大学】ロールモデル集「ナシダイResearchers」の発行 ……		45
・ 【シミックホールディングス(株)】 広報誌「C-PRESS」（クロスアポイントメント教員インタビュー） ……		46
・ 【(株)はくばく】女性初の総務人事部長登用 ……		47
「女性が輝く社会を目指す共創社会ゴールドパートナー」締結 「将来世代応援企業賞」受賞		

国立大学法人山梨大学 学長 島田 眞路



本学は、令和2年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受けました。今年度は事業を開始して3年度目となり、文部科学省への中間評価成果報告書の提出および中間評価面接審査が行われました。

本事業では、共同実施機関であるシミックホールディングス株式会社および株式会社はくばくとともに、女性研究者育成を中心とした事業を展開しております。企業と大学間の活発な人事交流から、総合的なキャリアマネジメントの仕組みを織り込んでいることを特徴とし、女性研究者の増員のみでなく、女性人材育成の拠点として地域に貢献することを目指し、様々な取組を行ってまいりました。

具体的な成果としては、大学全体で女性教員増員に向け新たな目標を設定することができ、女性教員の増加だけでなく、自然科学系や工学系の女性研究者の積極的な上位職登用が行われました。また、地域貢献型研究を行う女性研究者への研究支援により、地域に還元しうる研究成果が多く得られました。さらに、博士課程女子学生へのフェローシップ制度を制定することにより、優秀な女子学生の支援と育成を同時に行うことができ、令和3年度はフェローシップを受けた女子学生を本学助教に迎えることができました。

本事業により期待される、「女性研究者の活躍推進と地域社会への女性活躍の牽引」を実現するため、多様な人材が意欲をもって、多様な価値観と自由な発想を源泉とする学術文化の展開に取り組み、その能力を遺憾なく発揮できる環境整備を継続していきたいと考えております。皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

国立大学法人山梨大学 理事、副学長 風間 ふたば



本学では、2011年度に「女性研究者支援室」を立ち上げ、その後「男女共同参画推進室」と名称変更してからも継続して女性研究者支援を行ってまいりましたが、数年前からは地域をも含めた女性の“総合的キャリアマネジメントの循環”を意識し、各種事業を連携させて実施してきました。「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」は、“キャリアマネジメントの循環”の実現において、大きな役割を果たせると期待して事業を開始しましたが、実際3年の実施期間を経て、当初考えていた以上の手ごたえを感じています。

特に、企業から派遣いただいたクロスアポイントメント教員の活躍が目覚ましく、本学における先行事例となりました。まだその数は多くはありませんが、本学においては企業と大学との人事交流が加速する機運があり、女性研究者の活躍の場はさらに広がると考えています。また、女性研究者などのサポーターとして派遣した学生たちが、身近に研究者に接する機会を得たことで大学院への進学を決めるなど、勉学意欲の向上に本事業が役立ったことも望外の喜びでした。

本事業で得た様々な経験は、今後の本学の運営においても大きく役立つものになったと考えており、事業に関わっていただいたすべての方々へ感謝いたします。

シミックホールディングス株式会社 COO 大石 圭子



当事業が開始されてから3年が経ちました。シミックグループからも、クロスアポイントメント制度を活用し2名が教員として採用され、医学部との共同研究、シミックが運営する自治体支援事業との連携によるフィールドワークなどを通して、当事業の成果に貢献していることを大変うれしく思います。

今後、この事業が、山梨県内の女性活躍に繋がり、発信力を高められるような事業になること、女性のパワーで大学内外でイノベティブな活動になることを期待して、改めてシミックグループとして貢献していきたいと考えております。

株式会社はくばく 取締役管理本部長 田邊 征治



2022年は近年まれに見る激動の年でした。ウクライナ情勢悪化による穀物の供給不足、アフターコロナの経済回復に伴う需要回復に円安などが重なり、需給のひっ迫と穀物の国際相場の急騰が進み、海外より農産物を購入し加工食品を製造する当社にとって、まさに有事と言える状況でありました。このような現下にあっては「人材」の活用こそが企業が生き残るためのカギだと考えています。特に研究開発は、食品企業にとって価値を生み出す源泉だと捉えており、さらに言うところ開発部門における女性の活躍はもはや必須。本事業への参加意義はますます高まるばかりだと感じています。

引き続き、事業を通じた女性研究者の底上げと地位向上を期待するとともに、当社でもその実現を後押ししていきます。

事業の目的

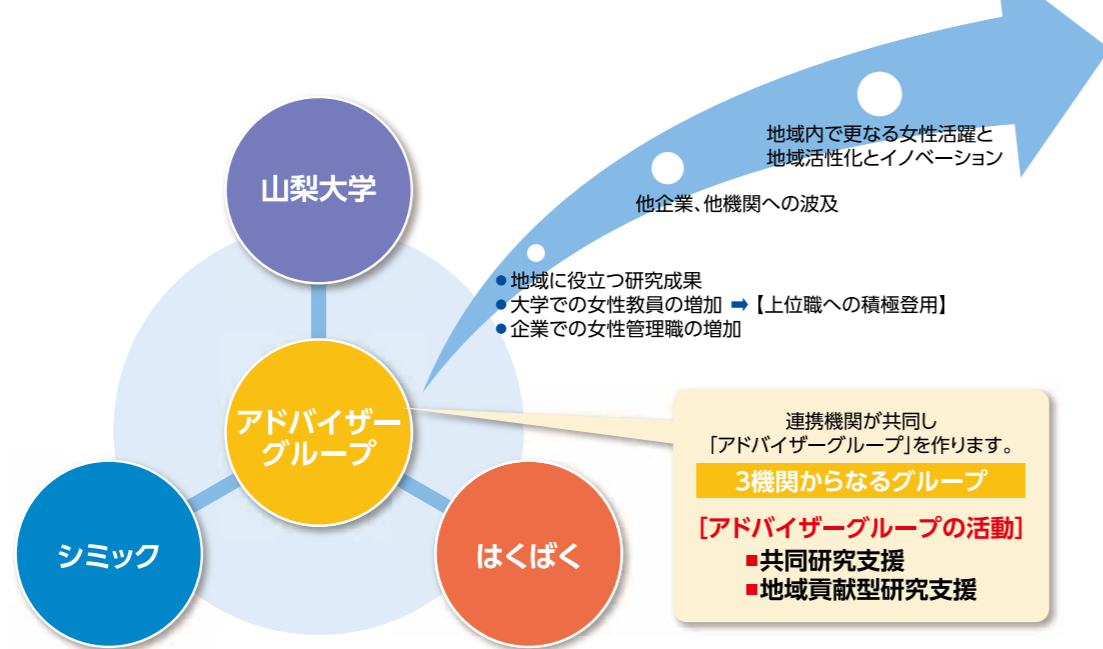
令和2年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。山梨大学、シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばくの三機関が連携し、地域のダイバーシティ環境の牽引を目指した各種の取り組みを進めます。

本事業の骨子は、クロスアポイントメント制度による大学と企業内の女性研究者の活発な人事交流の促進と、女性研究者を代表とする共同研究と地域貢献型研究への支援です。

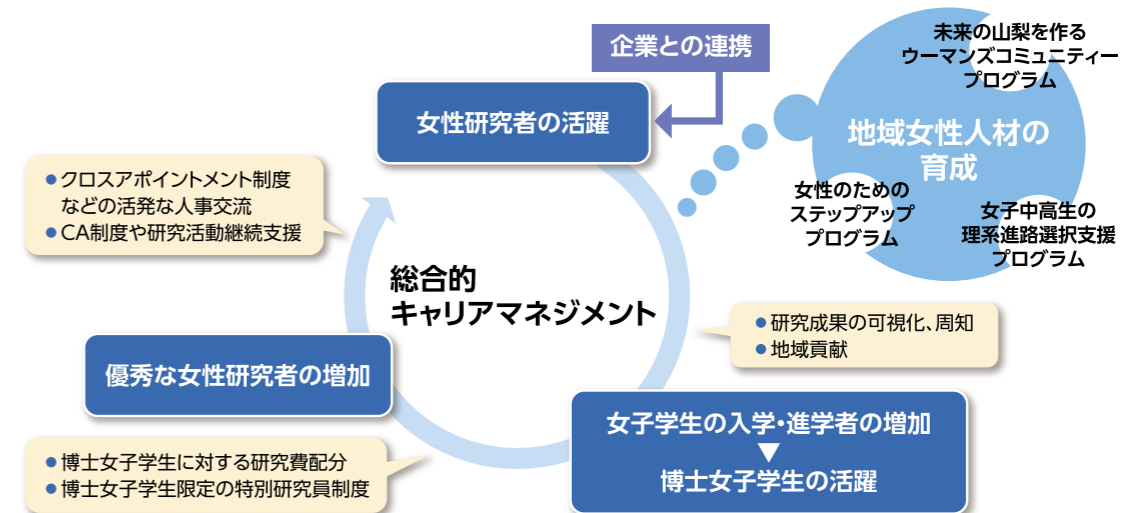
特に共同研究の推進においては、「アドバイザーグループ」により、女性研究者の研究活動を確実にサポートします。また、共同研究への大学院女子学生の積極的な参加を促すとともに、博士課程へ進学する女子学生への各種支援も用意して、地域を担う若手女性研究者の活躍による、地域イノベーションモデルの創造を目指します。

地域での取り組み

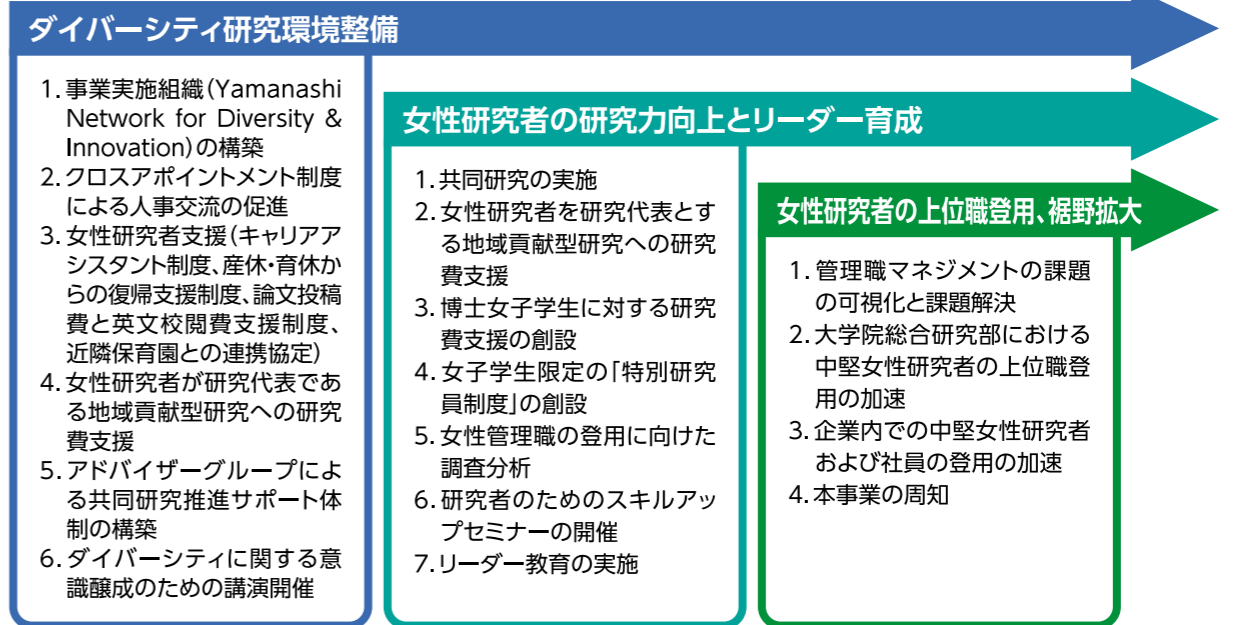
地域で活躍し、地域に貢献できる女性研究者・女性技術者の育成



総合的キャリアマネジメントの循環



環境支援と整備

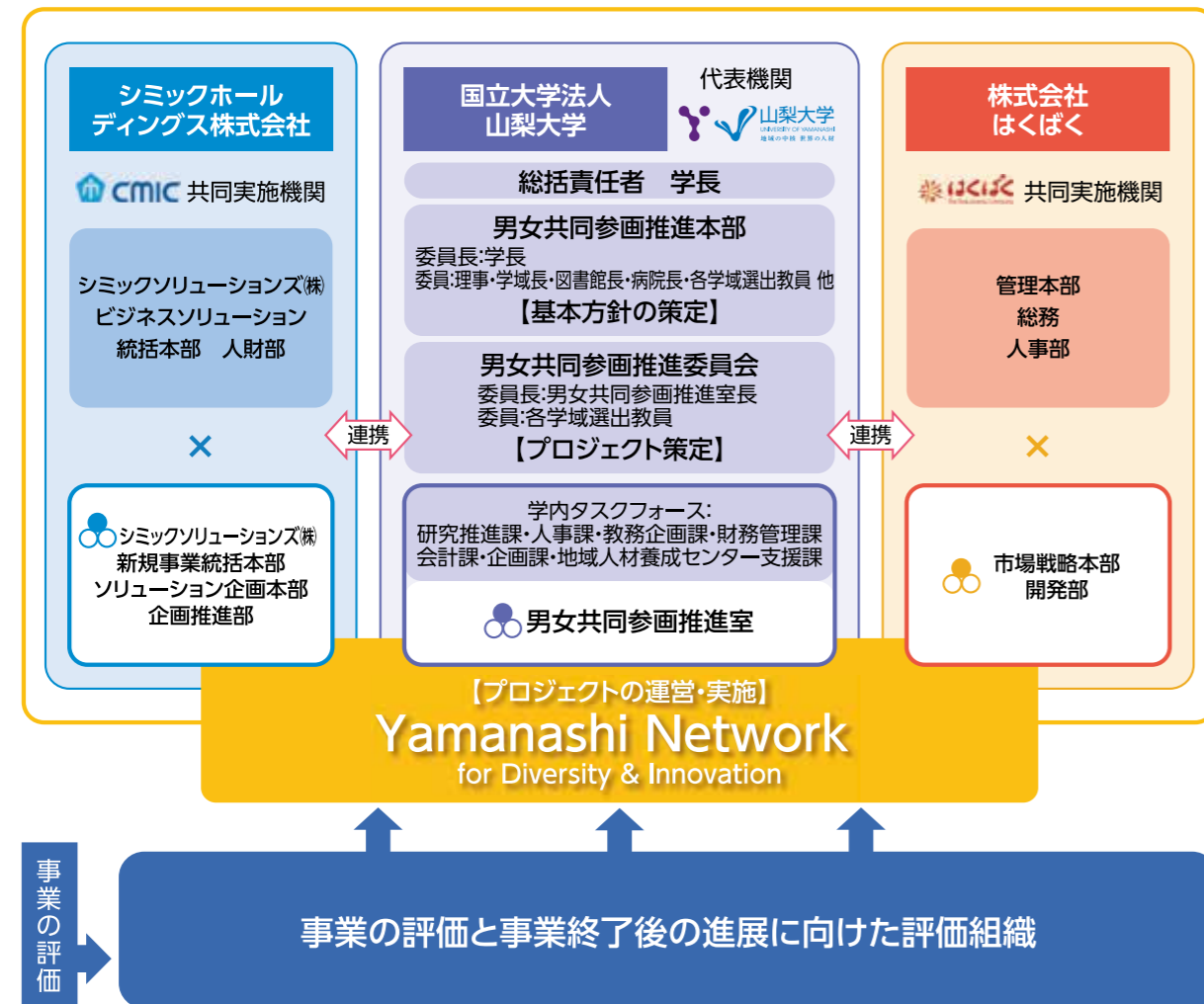


実施体制

本事業では、代表機関である山梨大学が医薬品の研究開発や付加価値向上などの各種支援を国内外で広く手掛けているシミックホールディングス株式会社、穀物販売を通じ人々の健康と豊かな食生活を実現することを理念とする山梨県内企業の株式会社はくばくと連携して、女性の能力を生かしたイノベティブな研究推進環境の創設による地域活性化のモデル作りを目指します。

「Yamanashi Network for Diversity & Innovation」を通じて、関係機関による連携・協力体制を構築しプロジェクトを牽引します。

連携体制



月日	主な実施内容
4月	クロスアポイントメント教員継続
4月	【山梨大学】 Coの花フェローシップ継続
4月	【シミックホールディングス(株)】 C-PRESS vol.22発行 (ダイバーシティ&インクルージョンに関する取組掲載)
5月 14日	【(株)はくばく】 ポスター発表 (第65回日本糖尿病学会年次学術集会)
5月 18日	【山梨大学】 オンライン交流会
5月 24日	【(株)はくばく】 「将来世代応援企業賞」受賞
6月	News Letter Vol.7発行
6月 15日	【シミックホールディングス(株)】 「カラダ測定会」における共同研究アンケート調査
6月 28日	第1回スキルアップセミナー [Online Seminar for Writing Academic papers in English]
7月 1~22日	【山梨大学】 ワークライフバランスに関するアンケート調査
7月 5日	【(株)はくばく】 シミックファーマサイエンス (シミックバイオリサーチセンター) 訪問
7月 14日	ダイバーシティマネジメント研修会
7月 15日	第1回事業評価委員会及び第1回事業実施委員会 合同開催
7月 20日	第1回次世代リーダー育成企画「女性社長対談」
7月 20日	【(株)はくばく】 研究進捗発表会
8月	【シミックホールディングス(株)】 C-PRESS vol.23発行 (クロスアポイントメント教員2名のインタビュー掲載)
8月	【(株)はくばく】 「診療と新薬」2022年8月号 (第59巻第8号) 報文掲載
8月 31日	第1回若手研究者育成セミナー [研究者のためのデザイン~伝わる申請書やプレゼン資料の作り方~]
8月 31日	【シミックホールディングス(株)】 「カラダ測定会」における共同研究アンケート調査

9月		News Letter Vol.8発行
9月	15日	第2回若手研究者育成セミナー 「質的研究の考え方とSCATによる質的データ分析～量では測れないものを科学的に考えるために～」
10月	6日	第2回スキルアップセミナー「英語論文の書き方オンラインセミナー」
10月	26日	第2回次世代リーダー育成企画「女性社長対談」
11月	17日	第3回若手研究者育成セミナー「品質機能展開の考え方と研究への応用」
11月	29日	【山梨大学】山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞表彰式
12月		News Letter Vol.9発行
12月	6日	【(株)はくばく】 ポスター発表 (22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition)
12月	8日	【シミックホールディングス(株)】 「カラダ測定会」における共同研究アンケート調査
12月	21日	山梨大学男女共同参画講演会
1月	6日	第2回事業実施委員会
1月	20日	女性研究者研究報告会・交流会
2月	7日	【(株)はくばく】はくばく勉強会
2月	22日	第3回スキルアップセミナー「英語論文の書き方オンラインセミナー」
3月	9日	第4回若手研究者育成セミナー「伝える力強化研修」
3月		News Letter Vol.10発行
3月		【山梨大学】ロールモデル集「ナシダイResearchers Vol.10」発行
3月		【山梨大学】企業調査報告書発行
3月		令和4年度事業報告書発行

連携して行った取り組み

■ クロスアポイントメント制度を活用した共同研究体制の継続および活動内容

本取組は、共同実施機関または他の企業と大学間で行う共同研究の推進者として、専門分野や能力によって大学の一部講義の担当者として等、大学と企業内の活発な人事交流の促進を図ることを目的としました。

本制度を活用することで、山梨大学女子学生が複数の企業の女性研究者のロールモデルと出会う機会が得られ、副次的に女子学生の大学院進学や企業の研究職への就職の促進が期待されます。また、クロスアポイントメント制度を活用し採用された企業女性研究者においては、大学における活動を通し、管理職などの上位職への育成の機会となることが期待されます。

令和4年度は、共同実施機関から以下の3名が、昨年度に引き続き山梨大学地域人材養成センターの特任助教として勤務しました。

各機関のクロスアポイントメント教員は、アドバイザーグループ内の定例会において、共同研究進捗報告を定期的に行い、研究内容の詳細について情報共有を重ねました。また、共同研究内容に関する合同勉強会を行いました。

企業	氏名	所属、活動内容
株式会社 はくばく	丸山 聡子	株式会社はくばく 市場戦略本部開発部研究開発課所属 生命環境学部地域食物科学科食品栄養学研究部門と株式会社はくばくで行う共同研究の推進を行う
シミック ホールディングス 株式会社	菊池 桜	シミックソリューションズ株式会社 新規事業統括本部 ソリューション企画本部 企画推進部所属 医学部とシミックホールディングス株式会社で行う共同研究の推進を行う 生命環境学域における授業のゲストスピーカーとして、学生と人事交流を図る
シミック ホールディングス 株式会社	真島 奈都美	シミック株式会社 臨床事業第三本部所属 日本CRO協会CRA 医学部とシミックホールディングス株式会社で行う共同研究の推進を行う 生命環境学域における授業のゲストスピーカーとして、学生と人事交流を図る

(1)ダイバーシティ研究環境整備

また、令和4年度は、以下の1名が山梨大学生命環境学部地域社会システム学科特任助教として採用されました。

企業	氏名	所属、活動内容
株式会社JTB 総合研究所	岡野 千帆	株式会社JTB総合研究所 事業企画部所属 チーフアナリスト 生命環境学部地域社会システム学科において、講義の一部を担当し、研究を行う

担当講義

・観光政策科学特別コース「観光経営論Ⅱ」講義補助

担当教員：山梨大学生命環境学部地域社会システム学科 田中 敦 教授
山梨大学生命環境学部地域社会システム学科 岡野 千帆 特任助教

開講学期・曜日・時限：後期・水・III

授業の目的および概要：

観光産業においては、老舗の旅館業に代表される個人型経営から、大手ホテルなどにみられるチェーン展開、国内外にネットワークを拡大したグローバル企業までさまざまな規模や経営形態の企業が存在します。また、宿泊、運輸、テーマパーク、総合旅行代理業やICTを活用した情報産業までビジネスモデルや規模も大変多様です。それぞれの業界の共通点、相違点を理解した上で、観光産業を取り巻く環境が大きく変化中、観光産業の現場では今どのような経営がなされているのか、今後どのような方向に進もうとしているのか、経営学の基本フレームを取り入れながら一緒に考えていきます。また、観光地域づくり法人（DMO）など地域経営と産業とのかかわりや「ワーケーション」のように新たな働き方と観光との関係についても触れる予定です。

・観光政策科学特別コース「観光政策科学特別講義」講義担当

担当教員：山梨大学生命環境学部地域社会システム学科 田中 敦 教授
(株)JTB総合研究所 渡邊 浩良 主任研究員
山梨大学生命環境学部地域社会システム学科 岡野 千帆 特任助教

対象学生：生命環境学部地域社会システム学科2年生

授業の目的：

コロナ禍の現在、人と人との交流の仕方が変わり、様々な分野でデジタル化が進むなど、既存の枠組みでは地域や組織が抱える課題を解決できない状況となっています。地域の課題はパターン化した処方箋で解決できるものではなく、地域で生じている課題をファクトベースでとらえ、構造化をし、課題策を考え、人を巻き込みながら実施していくことが必要となっております。そこで本講義では「観光」や「マーケティング」の側面から、山梨県の地域を対象に、地域の課題を分析し、解決策を考え、実際の人を巻き込むために必要となる一人歩きする提案資料作成ができるようになることを目的とします。

なお、本講座は、レクチャーやグループワーク、個別ワークを通して専門家とともにPBL (Project Based Learning) 形式で実施します。ビジネス経験の豊富な田中敦教授の講義や実務家である渡邊講師のリサーチや分析、ドキュメンテーションについて学び、実務的な力を養います。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

■ダイバーシティマネジメント研修会

- 日時：令和4年7月14日（木）14:00～15:30
- 場所：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール（Zoom同時配信）
- 主催：山梨大学男女共同参画推進室、地域人材養成センター
- 共催：シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく
- 参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員 104名（会場28名、Zoom配信76名）
- 講師：株式会社佐々木常夫マネジメント・リサーチ代表 佐々木 常夫（ささき つねお）氏
- 題目：組織として成果をあげるためのメンター制度とマネジメント
- 次第：開会挨拶
学長挨拶
講演
質疑応答
閉会挨拶



感想

- ・佐々木先生のお話がとても面白くあっという間でした。仕事のやり方も今後参考にさせていただきたいです。
- ・組織のマネジメントを行う上でのメンター制度を導入する理由と評価の方法について、ぶれない考えを持って今後対応していきたいと思えます。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

■ 山梨大学男女共同参画講演会

- 日時：令和4年12月21日（水） 14:00～15:30
- 方法：Zoom配信
- 主催：山梨大学男女共同参画推進室、地域人材養成センター
- 共催：シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく
- 参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員・学生、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員 115名
- 講師：一般社団法人日本リーダーズ学会 代表理事 リーダーズアカデミー 学長 早稲田大学エクステンションセンター 講師 嶋津 良智（しまづ よしのり）氏
- 題目：業務改善においてリーダーの果たすべき役割
- 次第：開会挨拶および講演者紹介
講演
質疑応答
閉会挨拶



感想

- ・身近に感じやすく、想像しやすい具体例なども取り入れていただき分かりやすい内容でした。
- ・リーダーとしてのヒントをたくさん頂くことができました。実際の課題点に対してどう取り組むとよいかも分かり、参加できてよかったです。
- ・リーダーとして部下の業務改善に対する役割を考えると言うことだけでなく、リーダー以外のメンバーも自己の業務効率改善に対しての参考、学びとなる内容であったと思います。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

山梨大学が行った取り組み

■ キャリアアシスタント（CA）制度

ライフイベント（※）中の研究者（※）は、研究活動のパワーダウンが懸念されます。山梨大学では、そうした時期にある研究者に対し、研究サポーターとしてキャリアアシスタント（以下「CA」という）を配置することで、ライフイベントと研究活動の両立を支援する制度を運用しています。

【支援対象者】

本学に在職する研究者のうち、共働き世帯又は一人親家庭の者でライフイベント中の者、ライフイベント中の配偶者がいる者、もしくはこれに相当すると男女共同参画推進室長が認める者。

【CAによる支援内容】

文献検索、データ整理・入力、図表作成、資料収集、実験補助、その他研究業務についての補助。

※推進室では「ライフイベント」及び「研究者」を以下のように定義しています。
 ライフイベント…妊娠、出産、育児（小学校卒業までの子の養育）、介護（2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある家族の生活支援や世話）
 研究者…常時勤務する教授・准教授・講師・助教・研究員など、府省共通研究開発管理システム（e-Rad）の研究者番号を付与されている者

●令和4年度CA制度利用者数

	研究者	CA
前期	17名	29名
後期	20名	38名

＼利用した研究者からの声／

- ・CAに作業を手伝ってもらうことで捻出できた時間を家事や育児に充当することができ、仕事と家庭の両立に大きな効果がありました。
- ・子供の送迎に間に合えるようになり、ライフイベントでの大きな手助けになりました。
- ・仕事を完全に休むことなく育児に参加できるため、とても有難い制度だと思います。
- ・CAを採用する前と比べると家族と話す時間が増え、細かな変化に気づく余裕ができました。
- ・CA制度を利用したことで、小学生・幼児を育てながらも、研究を大きく進めることができました。
- ・学生にとっても学外におけるアルバイトの代わりに自らの専門分野に近い研究の補助業務で収入が得られる大変優れた制度だと思います。

＼CA学生からの声／

- ・今までやったことのない実験などができてスキルアップできました。
- ・勉強になることばかりで大変面白く、興味深い活動でした。
- ・多くの経験ができ、新たな自分の力を発見できたのでとてもよかったです。
- ・研究者や研究をしている先輩方がいることで、自分の将来を考えることができ、進路の幅も広がりました。
- ・大学院に進学したいと思うようになりました。

■産休・育休からの復帰支援制度

山梨大学では、女性研究者のための「産休・育休からの復帰支援制度」を設けています。
この制度は、出産・育児によって研究活動が中断した研究者が、職場復帰を果たし、研究の停滞を取り戻すために、復帰後における研究活動及びそれに伴う経済的負担に対して支援することを目的とするものです。

【支援対象者】
支援の対象者は、本学に在職する研究者のうち、教授・准教授・講師・助教の職位にある者で、産後の特別休暇または育児休業から職場復帰して2年以内の者とする。

【助成金の対象】
助成金は、支援対象者が実施する研究活動に係る経費（物品費、旅費、謝金）に充てるものとする。

【助成額】
助成額は、10万円とする。ただし、予算の状況により助成額が減額される場合がある。

- 復帰支援制度 利用者
令和4年度 2名

■論文投稿費と英文校閲費支援制度

山梨大学では、女性研究者のための「論文投稿費と英文校閲費支援制度」を設けています。
この制度は、ライフイベントにより研究活動が停滞した女性研究者の論文作成に伴う経済的負担の支援を行うことを目的とするものです。

【支援対象者】
本学に在職する研究者のうち、次の各号を満たす者とする。
ライフイベント中、もしくはこれに相当すると男女共同参画推進室長が認める者。
筆頭著者として論文を作成する者。

【支援内容】
助成額は、論文一篇あたり上限5万円とし、助成金の用途は論文投稿費（英文校閲費を含む）とする。

- 論文投稿費と英文校閲費支援制度 利用者
令和4年度 1名

■保育園との連携

社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、「社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園」と協定を結んでおります。本学に在籍する教職員および学生は、宮前保育園が実施する一時預かり保育や病後児保育等を利用することができます。
また、学会等の開催の際に必要な託児所設置に関わる保育士派遣制度の利用も可能です。

○連携保育園

社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園（甲府市岩窪町379）
宮前保育園子育て支援センターShell&Beans

【宮前保育園 利用回数（令和4年4～11月）】

令和4年度	一時預かり保育	病後児保育
4月	11回	利用なし
5月	12回	
6月	8回	
7月	12回	
8月	16回	
9月	26回	
10月	18回	
11月	16回	

共同保育所みかげの森との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、「株式会社創街」と企業主導型保育施設の共同利用に関する協定を結んでおります。本学に在籍する教職員は、同社が設置した「共同保育所みかげの森」を従業員枠で利用することができます。

○連携保育園

共同保育所みかげの森（南アルプス市野牛島1828-63）